

令和7年度 第1回鉾田市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年6月25日（水） 開会13時00分 閉会14時00分

2 会 場 鉾田市旭総合支所2階会議室

3 出席者 鉾田市長 岸田 一夫
 鉾田市教育委員会 教育長 安原 優
 同 教育長職務代理者 嶋田 知恵子
 同 委員 大原 優子
 同 委員 三保谷 智浩
 同 委員 坪井 道彦

【説明員】

教育部長	小松 崙 智幸
教育部参事兼指導課長	河原 真樹
教育総務課長	吉川 紀子
教育総務課課長補佐	飯島 和宏
教育総務課係長	鬼沢 知輝
生涯学習課長	飯塚 貴
福祉保健部長	門井 勝幸
健康増進課長	石 崙 道夫
健康増進課係長	佐藤 央庸
福祉事務所長	佐藤 嘉雄
社会福祉課長	萩原 清
社会福祉課課長補佐	富田 庄司

【事務局】

政策企画部長	井川 斉
政策企画部参事兼政策秘書課長	山口 和好
政策秘書課課長補佐	石崎 明
政策秘書課係長	川田 尚樹
政策秘書課主事	田口 浩太

4 協議事項 (1) 鉾田市教育大綱の策定について
 (2) 不登校支援とひきこもり支援の連携について
 (3) 中学校の教育環境について

5 議事大要（議長：岸田市長）

○開会 （司会：山口参事）

○岸田市長あいさつ

今年度における本市の教育行政につきましては、これまでも進めてまいりました小中学校におけるICT環境整備の取組の一環として、県内でもいち早く取り組んだ、小中学校における児童生徒1人1台の学習用タブレット端末の更新を予定しております。

また、コロナ禍により実施できていなかった中学生海外派遣事業を再開することで、グローバル社会に対応でき、将来的に鉾田市の地域づくりに寄与できる人材育成を図るとともに、昨

年度から実証事業として実施しております、部活動地域移行（展開）に向けた地域クラブ活動の運営体制構築についても、関係機関と連携しながら進めてまいります。

そして、今年度は、10 年以上にわたる統合小学校整備事業の締めくくりとなる「鉾田市立旭小学校」の建設工事が完了となります。旭地区の子供たちに新たな教育環境をしっかりと届け、子供たちが健やかに成長できるよう、令和 8 年 4 月の開校に向けて事業を着実に進めてまいりますので、引き続きご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今回の会議では、「鉾田市教育大綱の策定について」、「不登校支援とひきこもり支援の連携について」、「中学校の教育環境について」の 3 点について、意見交換を行いたいと思いますので、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

（１）鉾田市教育大綱の策定について

<説明>

【川田係長】 資料 1 に基づき、鉾田市教育大綱の策定について説明。

【吉川課長】 資料 2 に基づき、鉾田市教育振興基本計画の策定について説明。

<主な質疑等>

【嶋田委員】 鉾田市教育振興基本計画の策定にあたっては、令和 10 年度に策定される国の教育振興基本計画の内容を踏まえるため、3 年間の策定期間にしたいとのことでした。この方針で進めていただければと思います。

また、ICT の発達など子供たちを取り巻く環境は急速に変化していると思うので、例えば現在の大綱・計画の評価・検証に基づく内容を盛り込むなど、社会情勢を考慮した鉾田市教育大綱・鉾田市教育振興基本計画を策定していただければと思います。

【岸田市長】 社会情勢の変化を踏まえながら、今後の計画策定に生かしていきたいと思います。

【安原教育長】 子供たちを取り巻く社会情勢は激変していると思います。授業やその他の教育に関する取組は逐日変化していますので、その点を踏まえながら時代に合った計画を策定していきたいと考えています。

【岸田市長】 今まで以上に市長部局と教育部局が連携を密にし、鉾田市教育振興基本計画との整合性・連動性を図りながら策定に向けて準備を進めていきたいと思います。

【安原教育長】 他自治体の中には、教育大綱と教育振興基本計画が一体的に策定されているケースもあるため、市長部局と連携し、どういう体系が適当か今後検討していきたいと思っています。

【岸田市長】 私自身も、現場の状況を踏まえながら、一体的に策定できるものは策定をしていくべきだと考えています。そういった状況を踏まえまして、両部局が連携を図りながらしっかりとしたものを策定していきたいと思います。

（２）不登校支援とひきこもり支援の連携について

<説明>

【河原参事】 資料3に基づき、不登校未然防止の取組と不登校児童生徒及び保護者への支援、関係機関との連携・接続について説明

【石寄課長】 資料4に基づき、ひきこもり等支援の現状について説明。

<主な質疑等>

【大原委員】 小中学校における不登校のお子さんへのきめ細やかな対応や、未然防止への取組を行っているとのことですが、学校を卒業して社会に出た後の引きこもりへの対応が難しいと感じました。

先ほどの引きこもり等の支援において「情報の共有」や「連携」という言葉が度々出てきたかと思います。このため、小中学校で不登校支援をする際に、教育部門だけでなく福祉などの多様な部門を巻き込んで連携を図っておくことが重要だと思います。例えば、SCやSSWなどを活用して、お子さんの社会的・経済的課題や家庭内での問題を把握し、小中学校の不登校の段階から福祉部門にも十分な情報が共有され、連携して課題解決にあたることができる取組が重要だと思います。

すでに十分な取組をされているとは思いますが、今後さらにこの連携を深めていただければありがたいと考えています。

【岸田市長】 大原委員の意見に賛同です。市民が苦しんでいるところに手を差し伸べるこそが私たちの仕事だと考えています。「連携」という言葉だけにとどまらず、課題をしっかりと解決できるように導くことができる確かな「連携」を図って、担当部局の皆さんには進めていただきたいと思います。

【三保谷委員】 悩みを抱えた相談者が相談できる機関が3か所あるとのこと説明でしたが、まずは「どこに相談すればよいのか」と悩ませることのないよう、相談窓口を1つに集約することで、相談しやすい環境が整うのではないかと考えます。

【岸田市長】 三保谷委員のご意見の通り、相談しやすい環境を整えることは必要なことだと思います。この件について、河原参事からご意見あるでしょうか。

【河原参事】 学校では、子ども家庭課と情報を共有し、連携を図りながら支援を進めています。例えば、家庭の状況などによって、学校だけでは対応が難しい場合には、子ども家庭課と協力して対応を行っているところです。

また、相談窓口の一元化については、学校には直接相談できる体制が整っていますが、その後、どこに相談すればよいのか分からずに悩むケースもあると思います。したがって、相談内容に応じて適切な支援機関につなぐことのできる場所があると、より効果的な支援体制が構築されると思います。

【岸田市長】 相談者の中には、様々な事情により教育機関に相談したくないという人もいますので、そういう人にも適切に支援できるよう考えていただく必要があると思います。

福祉部局の方からご意見あるでしょうか。

【門井部長】 市長ならびに委員の皆さまからご指摘、ご提言いただいた内容は、まさにその

通りだと思っています。

現在、健康増進課内では、窓口の一元化を明確化し、相談者がすぐに相談できる体制の整備について、協議を進めているところです。例えば、窓口を一元化した際に、相談内容に応じて適切な部署に案内できるコーディネーターの配置などを検討しています。今後も引き続き、協議をしていきたいと思っています。

【安原教育長】 私も学校に勤務していた際、連携について感じるがありました。学校現場で問題が発生し通報があった時に、教育委員会以外の市の担当部局の方々がすぐに学校へ駆けつけ、対応していただいたことがありました。この時、現場にとって非常に心強いものでした。

各部署では、それぞれの役割のもと必要な仕事を行っていると思います。一方で、部署間のいわば「隙間」が生じてしまうことがあります。その「隙間」ができないような体制の構築に向けた協議をこれから積極的に行っていく必要があると思っています。

【大原委員】 相談者との関係性を作るのに最も重要なことは、お互いの顔が見える関係性を築くことだと思います。「こういう時はここに相談すればよい」という情報が文書で示されているだけでは、いざ相談しようと思っても、敷居が高いと感じてしまうと思うので、顔が見える関係づくり、場づくりが必要だと感じました。

【安原教育長】 教育委員会としても、問題を抱える人に対して、どのように働きかけたら円滑にいくのかということ、複数の部署と協議の場を設けて進めていきたいと思っています。

【岸田市長】 福祉部局においても、支援の枠組みから漏れてしまう人に対して、早期に対応できる体制を構築してもらいたいと思います。

【坪井委員】 引きこもりに関しては、早期発見・早期対応が必要だと思います。また、問題が発生した時から社会に出るまで支援をする人が同じであることが大事なのではないかと思いました。

【岸田市長】 私が感じたこととして、言葉だけの「連携」だけでなく、問題解決につながるように踏み込んだ「連携」をしていただきたいと思います。そのためには、今までのような縦割りの業務体系ではなく、関係機関が一体となった協力体制の構築が必要だと思います。

ただ、それぞれの庁舎が物理的に離れているということが協議を行う上で障壁になっていると痛感しています。言い訳に聞こえるかもしれませんが、これは看過できない問題であると思います。

現在、新庁舎・公共施設等の一体的な整備を進めています。これにより、分散せずに1つの場所でより強固な連携を図ることができると思うので、1日も早い実現を目指していきたいと考えています。

いずれにしても、各部局におかれましては、これまで以上に綿密な連携を図りながら進めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(3) 中学校の教育環境について

<説明>

【吉川課長】 資料5に基づき、中学校の生徒数の推移や各学校の状況について説明。

<主な質疑等>

【三保谷委員】 今後の中学生生徒数の推移をみると、令和17年から令和19年にかけて、子供の数が少なくなることが予想されており、同時に、中学校校舎は経年劣化により老朽化が懸念されると思います。

これらの課題に対し、校舎の建て替えや統廃合など様々な選択肢があると思いますが、私は既存の小学校校舎を有効活用するという視点が重要だと考えています。理由としまして、生徒数の減少に伴い、将来的に2クラスあったものが1クラスになってしまう。この場合、必ず空き教室が出てくることになります。この空き教室を活用し、中学校の機能を移転することで、効率的な学校運営ができるのではと思っています。

【岸田市長】 河原参事からご意見あるでしょうか。

【河原参事】 学級数についてですが、現在、国において小学校35人学級、中学校40人学級で進めているところですが、今後は中学校も35人学級にする方向で検討が進められています。そのため、2クラスが1クラスになるという状況は、もう少し先になると思っています。

その上で、三保谷委員より小学校校舎の利用についてのご意見がございましたが、現に国においても小中学校を一体化した「学園制」の導入を推奨している面もあります。したがって、既存の小学校校舎の有効活用という視点は、今後の学校の在り方について大変参考になると思いました。

【安原教育長】 中学校の教育環境については、主に生徒数の推移や施設の老朽化が課題となっています。

現在、鉾田市内では、既に小学校の統合が進み、4つの小中学校区となっています。また、学校運営協議会を学区に1つ設置する計画のもと、今年度鉾田南小中学校区が本格実施となりました。

これらを踏まえ、現時点での私の考えを申し上げます。今後の鉾田市の教育の方向性を考える上で、この4つの小中学区制は維持していくべきであると考えています。その1つの理由として、中学生たちが自力で通える範囲に中学校が存在するという環境を維持することが、重要だと思っているからです。

【岸田市長】 中学校の将来像や適正な学校数については、決して避けては通れない重要な課題であると認識していますので、今後、慎重に進めていきたいと考えています。

その上で、一点、河原先生のご意見を伺いたいと思います。先日、鉾田北小中学校に訪問した際に、印象に残ったのが、同一敷地内にある鉾田北小学校と鉾田北中学校の様子でした。そこでは、中学生が小学生の子供たちに対して優しく接する姿が見られました。このような、異なる世代間での常的な交流が子供たちの成長に与える影響は、メリットしかないと確信しています。現在、市内で小中学校が同一敷地内にあるのは、鉾田北学区のみですが、こうした小中学校の生徒の交流がもたらす教育的効果について、どのように考えているのでしょうか。

【河原参事】 ご意見の通り、小中学校が同じ敷地内にあることは、子供たち同士の交流の促進などの面で大きなメリットがあると思っています。

一方で、同一の敷地内にあっても時間割の都合が合わず、必ずしも十分な連携

が図れていないという現状もあります。このため、交流機会を創出する例として、大洋中学校の生徒が大洋小学校へ出向いて合同であいさつ運動を行ったり、大洋小学校の児童がつばさ幼稚園の園児と一緒に芋掘りをしたりと、素晴らしい取組も見られます。

このように、敷地内でのメリットはもちろんのこと、たとえ敷地が一体でなくとも、近隣にあるという地理的条件を生かし、交流を行うことは十分に可能であると考えています。

【安原教育長】 今後、中学生、鉾田市全体にとってどういう環境が良いのか検討する機会も設けながら検討していきたいと思います。

【岸田市長】 たくさんのご意見ありがとうございます。教育委員会の皆様におかれましては、これまでもご尽力いただいていることと思いますが、改めて様々な面から研究をしていただいて、中学校における教育環境の整備を着実に推進していただきたく思います。

また、私が常々申し上げている通り、子供たちは「宝」であります。その「宝」である子供たちに、他の市町村に引けを取ることもない、質の高い教育環境を提供することは、我々の責務だと考えています。このため、教育委員会の皆さま、執行部・議員各位におかれましては、真摯に受け止め、全力で取り組んでいただきたいと思います。

【岸田市長】 それでは、本日いただいた意見等を参考に、市、教育委員会が連携し、鉾田市の教育の更なる発展に向けて努めてまいりたいと思いますので、引き続き皆様方のお力添えをお願いいたします。

それでは、議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

5 閉 会